

いのちのパン

「いのちのパン」という表現は、ヨハネによる福音書の特徴ある言葉です。ヨハネによる福音書は、最後の晩さんの記事がのっています。他の福音書やコリントの信徒への手紙などに伝えられているイエスさまの言葉が伝えられていません。このイエスさまの言葉は、感謝の祭儀の中の聖別の言葉として、繰り返し教会の典礼の中で唱えられてきています。しかし、イエスさまがいのちのパンであり、これを食べる人は永遠に生きることがはっきり伝えられています。

います。ヨハネ福音書6章は、教会の中で、聖体について教えていくために書かれたと考えられています。イエスさまの十字架の死にもかかわらず、イエスさまは今も私たちのうちに生きておられ、私たちがその肉を食べ、その血を飲むことによって、はっきりと知ることができます。

いのちの尊さ

「いのち」という言葉を考える時、常に「死」についても考えなければなりません。人は必ず死ぬものであり、だれも死をまぬがれることはできません。

人にとって死は大きな問題です。しかし、人にとって
さけることができない死も、それですべてが終わるの
ではありません。イエスさまは、十字架の死を通して、
私たちに永遠のいのちがあることを示しました。つ
まり、たとえ十字架上で殺されても、イエスさまがい
つまでも生きていることを私たちに知らせました。
私たちはもつと「生きる」ことの大切さを考えな
ければなりません。また、今ほど、「いのち」の尊さが
が叫ばれている時代は、かつてなかったように思えま
す。私たちの手で、「いのち」の尊さを伝えていき

ましよう。いのちについて、思いついたことを、次の
空白に書いて下さい。

